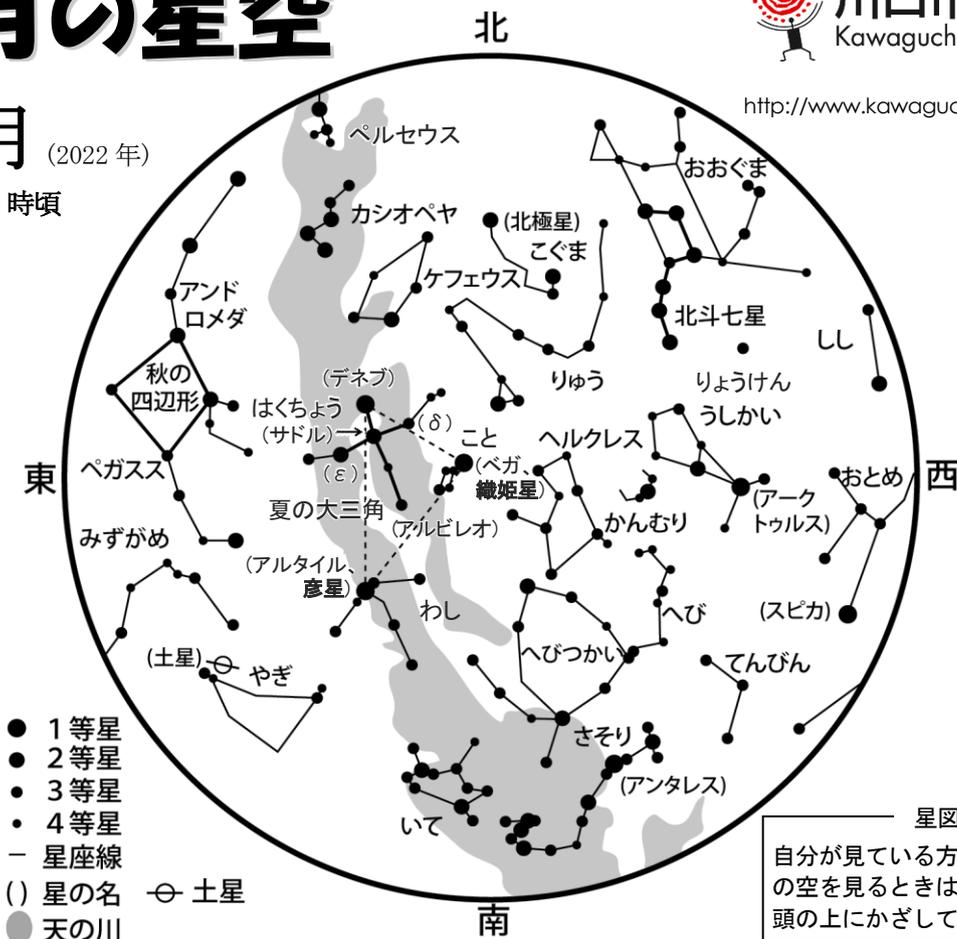


今月の星空

8月 (2022年)

中旬 20 時頃



月 齢 ●上弦 5日、○満月 12日、●下弦 19日、●新月 27日

惑星情報

金星 日の出前 東(ふたご→かに→しし座 -4等)

火星 日の出前 南東(おひつじ→おうし座 0等)

木星 真夜中 南東(くじら座 -3等)

土星 夜のはじめ頃 南東(やぎ座 0等)

☆夏の三角とはくちょう座

4日は旧暦7月7日にあたり「伝統的七夕」と呼ばれます。空高くに、織姫星(こと座のベガ)と彦星(わし座のアルタイル)、その間には天の川があり、見ごろです。この七夕の星とはくちょう座のデネブをつなぐと夏の三角となります。郊外等空の暗い場所に出かけた際には、天の川にかかるさそり座～夏の三角～カシオペヤ座のラインを意識して、天の川を探してみましょう。

はくちょう座は明るい星が十字の形に並ぶ(北十字と呼ばれる)見つけやすい星座です。星図を参考に、①デネブ→サドル(2.2等)→アルビレオ(3.1等)、②サドル→^{イプシロン}ε星(2.5等)・^{デルタ}δ星(2.9等)と十字をたどってみましょう。また、望遠鏡を使ったアルビレオの観察もお勧めです。この星は色の対比が美しい二重星で、小型の望遠鏡でもオレンジ色の3等星と青白い5等星に分かれて見えます。

☆夏休みは夜更けの星空にチャレンジ!～惑星と流れ星を見よう～

(1) 4つの惑星を見る…まずは、南東から昇ってきた土星。15日には太陽と正反対に位置する衝となり、一晩中観測できるようになります。続いて、木星、火星、金星が一晩かけて次々に昇り、夜明け前の空では4つの惑星が一度に見られる時間帯もあります。望遠鏡を使った土星の環や木星のガリレオ衛星等の観察もお勧めですが、肉眼でも惑星それぞれで、明るさや色が異なる様子がわかります。

(2) 3大流星群の一つ「ペルセウス座流星群」を見る…13日午前10時頃にペルセウス座流星群が極大を迎えます。見ごろは11日から13日までの3晩で、特に12日の夜遅い時間から13日の夜明け前(午前3時台)に向かって数が増える予想です。12日は満月の月明かりがあるため条件は良くありませんが、月を視野から外すようにして、なるべく広い範囲を見続けてみましょう*。また、流星群の時期でなくても散在流星(流星群に属さない流れ星)が見られる可能性もあります。夜のはじめ頃よりも遅い時間に多く流れる傾向にあるので、のんびりと星空観察を楽しむのも良いでしょう。

*流星群の詳細情報は国立天文台の天文情報 <https://www.nao.ac.jp/astro/>をご参照ください。